

留萌に雪が多い理由

VOL 95

留萌いま・むかし

雪に埋れた留萌

「留萌の雪は下から降ってくる。」
言わずと知れた留萌の冬を表現したことばである。実際留萌の冬季の風はものすごく強い。それと共に雪の量も多い。

留萌は風の強い街と良く言われる。年間の平均の風速は四・九メートル/秒だが、冬季になると北西の季節風がシベリアから日本海を渡り猛烈な勢いでやってくる。観測を始めてから最大の風速を観測したのは一九五一年二月二十二日の三十六・七メートル/秒である。ちなみに稚内の最大風速は二六・七メートル、寿都では十四・八メートルであり、日本海側の観測地点の中でもずば抜けて風が強い。太平洋側の観測地点では浦河の三九・六メートル/秒があるが、道内の観測地点では第二位の強い風が吹いたことがあるのである。特に冬季が強いことが特徴である。

年間の降水量は平均一、二四〇ミリぐらいであるが、冬季に降水量が多い。これが雪として降ってくるのである。

では、なぜ留萌を含む日本海側に雪が多いのか考えてみよう。留萌の沖の日本海を暖かな海の流が南から北に向かって流れている。黒潮が九州の沖で別れた対馬海流である。こ

志 広 士 福

館長とさとのふるさとの海芸学

ふくし・ひろし
昭和28年生まれ。41才。
同58年留萌市役所入庁。
同60年より本稿執筆

の海の流は、大量の水蒸気を発生させている。この水蒸気が雪の元になるのである。冬の北西の季節風は大陸から吹きだしてくるときは乾燥した冷たい風である。ところが日本海を渡るときに、対馬暖流から立ち上る水蒸気を多量に含み、雲を発生させる。この雲をもつて風が天塩山地の斜面にあたると雪になって天から舞下りてくるのである。留萌の雪の多さはシベリアの寒気団から吹き出す冷たい風と暖かい日本海の造りだした共同作品といえよう。

つまり、万が一留萌の沖を暖かな海の流、暖流ではなく、太平洋側の千島海流のような冷たい海の流が流れていたとしたら、留萌には雪は降らない。しかし、逆に留萌の冬はもつともつと厳しい寒さになってしまうことだろう。

ただ、雪が下から降ってくるのは風が異常に強いからであり、冬の最低気温がマイナス二十度以下になることが稀なのに、寒く感じるのはこの風の強さが人々の肌から熱を奪いさるからである。

今年ももうすぐに冬將軍の足音が聞こえてくる。